

## 2003年度(平成15年度)(第108回)総会・学術評議員会記録

日時：2003年(平成15年)4月2日(水)13:00～14:45

場所：アクロス福岡1階シンフォニーホール

開会の辞 猪口庶務担当理事より平成15年度第1回理事会決定に基づき、総会および学術評議員会を同時開催とする事、総会は出席者101名、委任状1,145名、合計1,246名で会員総数2,283名の過半数1,142名を上廻り、定款第31条に定められた定足数を超え成立、学術評議員会は455名のうち既に委任状120通が届いており、出席者を合わせると定款施行細則第9条に定められた学術評議員現在数の1/5(94名)を越え、総会・学術評議員会ともに成立している旨の報告がなされ開会が宣せられた。

議長選出 猪口庶務担当理事より慣例により議長は会頭が努めるが、猪口会頭は庶務担当役員を兼ねており、定款第10条3項に基づき努めることができず、吉塚副会頭に議長を委任したい旨提案があり、承認された。続いて副議長に宮崎医大菅沼龍夫教授を書記に九州大学中村桂一郎助教授を推薦したい旨提案があり、承認された。

### ・議事録署名人の選任

猪口庶務理事より議事録署名人として長崎大小路武彦教授、中村学園大藤田守教授を推薦したい旨、提案があり承認された。

### ・理事長報告

第108回日本解剖学会全国学術集会を準備頂いた猪口会頭、吉塚副会頭、組織委員会の方々には感謝したい。今回の学術集会では科学の広い分野をカバーし、また医学教育の問題なども数多くシンポジウムとして取りあげて、活発な学術集会として進行している。ところで、解剖学会に関連した問題として、まず取りあげたいのは研究費の問題である。文部科学省からの研究費のうち科学研究費の占める割合は約50%であり、残りの約50%は総合科学技術会議の意向を反映してトップダウン型の重点領域として配分され、主として応用科学面に振り分けられている。解剖学会の多くの会員の研究は、応用とは離れた基礎的なものであり、そのために理事長としてあるいは兼任している文部科学省の科学官としてなど様々な立場、機会にボトムアップ型の研究費の増額の努力をおこなっている。会員の皆さんも御支援をお願いしたい。

次に学術集会については、この充実を前期の理事長就任の際に目標として挙げたが、関係各位の方々の努力によりこのように内容のあるものになってきている。若い世代の人ができるだけ参加できるように将来計画委員会なども立ち上げて検討してゆきたい。国際解剖学会議については京都大学井出教授を中心にプログラムをつめている段階であり、内容豊富なものが出来上がりつつある。形態学研究は欧米を含め、日本が世界をリードしている分野の1つであり、欧米ではそれを支える学会も弱体化してきている。このため世界的にも日本がリーダーシップをとってこの分野を引っ張ってゆく必要があると考えている。

学会誌については、欧文誌「ASI」は千葉大学千葉教授他関係の方々の御尽力で無事立ち上がり、文部科学省の科学研究費の出版補助金も受けることができた。学会財政については山科会計担当理事の努力と「ASI」の出版補助金獲得などのお陰で改善のきざしが見られているが、今後一層の努力が必要な分野である。

以上のように周囲をとり巻く状況は決して予断を許すものではないが、日本がこの領域の科学で今後一層世界をリードしてゆけるよう努力してゆく所存である。会員各位の御協力をお願いしたい。

#### ・報告事項

##### 1. 会員報告

2002年12月31日現在の会員状況として、正会員2,308名、名誉会員153名、永年会員52名、賛助会員46名、団体会員55名、海外会員21名である旨、報告がなされた。

##### 2. 物故会員

10名の物故会員の氏名が朗読され、続いて出席者全員による黙祷が捧げられた。

##### 3. 教授就任による新学術評議員紹介

教授就任による新学術評議員8名の紹介が資料に基づきおこなわれた。

##### 4. その他

平成15年3月31日開催の平成15年度第2回理事会により決定された「科研費補助金審査委員候補者選挙に関する内規」の一部改訂について報告がおこなわれた。改訂案の要点(下線部)および手順は以下のごとくである。全学術評議員による審査委員候補者適任者の推薦：学術評議員1人につき、解剖学一般、神経解剖学合計3名まで推薦可とする。なお、推薦方法は氏名のみ(推薦理由は記載不要)の記載とし、記名投票とする。選挙管理委員会による推薦書の集計：学術評議員2名以上ないし理事(1名)の推薦を受けたものを「審査委員適任者」として推薦委員会に報告。

「推薦委員会」開催：推薦集計結果をもとに解剖学一般40名、神経解剖学15名、合計55名、場合によってはこれに委員会独自の10名までを追加、合計最大65名の「候補者」につき、順位を付けて理事長に推薦。理事会による最終候補者の決定。

#### ・審議事項

##### 1. 新永年会員の件(猪口庶務担当理事)

理事会より推薦の12名の候補者につき資料をもとに審議がおこなわれ、承認された。

##### 2. 申請による学術評議員の件(猪口庶務担当理事)

理事会による審議の結果提案された3名の候補者について資料をもとに審議がおこなわれ、承認とされた。

##### 3. 2002年度事業及び業務監査の件

学術集会開催状況(猪口庶務担当理事) 会議開催状況(猪口庶務担当理事) 学会誌(ASI, 解剖学雑誌)の刊行状況及び両誌の編集報告(高田編集担当理事): 以上の3件につき資料をもとに説明がなされ、承認された。

委員会報告(各委員会委員長)

1) 剖組織技術士資格審査委員会報告(委員長 山下和雄 日本医大教授)

2) 解剖体委員会報告(委員長 加藤 征 慈恵医大教授)

3) 解剖学用語委員会報告(委員長 清木勘治 東海大学名誉教授)

4) 海外交流委員会報告(委員長 佐々木順造 岡山大学教授)

5) 教育委員会報告(委員長 妹尾春樹 秋田大学教授)

6) 情報技術委員会報告(委員長 辰巳治之 札幌医大教授)

7) 学術委員会(委員長 柴田洋三郎 九州大学教授)

8) コメディカル教育委員会 (委員長 大谷修 富山医科薬科大学教授)

以上 8 委員会の 2002 年度委員会活動について、資料を基に各委員長より報告がおこなわれ、承認された。

研究の奨励及び業績の奨励 (河田企画・渉外担当理事)

2002 年度奨励賞受賞者 (3 名) 及び技術士功労賞受賞者 (2 級技術士 3 名) について資料を基に報告がおこなわれ、承認された。

内外学術団体との協力ならびに連絡 (河田企画・渉外担当理事)

共催 1 件、後援 2 件、協賛 2 件、計 5 件の内外学術団体との協力につき説明がなされ、承認された。

技術士認定 (河田企画・渉外担当理事)

2 名、3 件 (解剖 2、組織 1) の 2 級技術士合格者および現在までの技術士累計についての報告がおこなわれ、承認された。

名簿の刊行 (猪口庶務担当理事)

2002 年 12 月 1 日付で名簿を送付したこと及び学会財政改善に資するため有償配布とし、財政改善に役立ったことなどの説明がおこなわれ、承認された。

4. 2002 年度決算および会計監査報告の件 (山科会計担当理事)

2002 年度決算と新日本監査法人宮内公認会計士の監査結果につき資料をもとに山科会計担当理事から説明があり、それに対し内山安男監事から滞りなく執行されていることを確認した旨報告がおこなわれ、審議の結果了承された。

5. 2003 年度事業計画および予算の件

2003 年度事業計画につき猪口庶務担当理事より、予算につき山科会計担当理事より資料を基に説明があり、審議の結果了承とされた。

6. 日本解剖学会動物実験指針の件 (猪口庶務担当理事)

解剖学会としての動物実験指針 (案) について説明があり、審議の結果承認された。

7. 日本解剖学会奨励賞関連規程一部改訂の件 (河田企画・渉外担当理事)

標記規程の改訂案について審議がおこなわれ承認とされた。

8. 第 110 回 (2005 年度) 総会・学術集会開催校の件 (猪口庶務担当理事)

標記総会・学術集会につき、富山医科薬科大学で大谷修教授を会頭として開催する旨、理事会から推薦があり審議の結果承認された。

9. 2003 年度・2004 年度役員選任の件 (猪口庶務担当理事)

理事選挙結果、および選出された理事の互選により、理事長に廣川信隆東京大学教授、常務理事に河田光博京都府立医科大学教授、柴田洋三郎九州大学教授、高田邦昭群馬大学教授、山科正平北里大学教授が選出された旨報告があり、審議の結果了承された。

・ 第 16 回国際解剖学会議準備状況報告

標記会議の準備状況につき、井出千束組織委員長より報告がおこなわれ、会員諸氏の協力をお願いしたい旨要請があった。

閉会の辞 猪口庶務担当理事より閉会の辞が述べられ、2003 年度 (第 108 回) 総会・学術評議委員会を終了した。